## 穗



令和元年度 広州日本人学校 学校便り [No.7] 令和元年9月26日(木)

発行責任者 校長 喜屋武浩司

## 「北京修学旅行を終えて」

校長 喜屋武 浩司

9月17日(火)から20日(金)までの3泊4日で、中学部2年修学旅行で北京を訪れました。言うまでもなく北京は中国の首都であり、政治、経済、文化の中心地であります。今年は建国70周年を迎える年で、空港から市内の至る所に建国を祝う掲示や植栽が華やかに施されてました。各観光地では厳しい手荷物検査が行われ、日によっては入場制限や入場禁止になる場合もありました。幸い、本校はそのような入場禁止にも会わずにスケジュールを進めることができました。

ここで、四日間で巡った主要な見学地や見学の様子を紹介したいと思います。

初日は、空港到着後に頤和園(いわえん)へ向かいました。頤和園は中国・北京北西部の万寿山と、その南の昆明湖に広がっている巨大な庭園です。戦争で破壊された後、1888年に西太后が再建、「頤養沖和(穏やかさを養う)」という言葉から『頤和園』という名前に改名されました。生徒は各班で頤和園のシンボルである佛香閣を目指しました。山の中腹に位置しますが、声を掛け合いながら登り、



そこから見下ろす広大な昆明湖が人工湖であることを思いだし、中国の人力の偉大 さをあらためて感じたようでした。

二日目は北京修学旅行最大の見学地、万里の長城です。中国を統一した秦の始皇帝時代(紀元前 210 年ごろ)に建設が始まり、漢の武帝(紀元前 100 年ごろ)など歴代王朝が拡大と延長を繰り返し、明朝の時代(西暦 1500 年ごろ)に完成した

といわれ、その目的は北方騎馬民族の侵略から領土を守るためでした。1987年には世界遺産に登録されました。総延長約6000キロの城壁は人類史上最大の建築物であり、英語では"The Great Wall"と呼ばれています。私たちは北京近郊にある最も有名な「八達嶺(はったつれい)長城」に登りました。入り口を入ると右に「北城」(緩やかな坂のため別名「女坂」)と左に「南城」(急坂のある「男坂」)と



分かれます。雲一つない秋晴れと心地よい風の中、どの班も「男坂」に挑戦し、きついながらもお互い励まし合いながら最後まで登りきり、中腹からの雄大な眺めに感動すると同時に、延々と続く長城に 2000 年前の領土を守る厳しさに想いを馳せたことでしょう。

三日目は天安門広場、天安門、紫禁城、故宮博物院、景山公園、王府井と回りました。1949年10月1日、毛沢東は天安門の楼閣から中華人民共和国の成立を高らかに宣言しました。天安門は紫禁城の外城壁南端に位置する正門。1651(清の順治8)年に現在の規模に増築され、その折に名前も天安門と変わっています。

建国 70 周年の式典やパレードが行われる場所ということもあり、警備が厳しい中、そして最も観光客の多いところで



もあるため、班長もはぐれる人がいないか常に気を配りながら見学していました。 お互い手をつないだり声を掛け合ったりする様子はとても微笑ましく、この学年の 仲の良さを見ることができました。

最終日は「胡同」散策です。胡同とは、北京特有の路地、横丁のことで、庶民の 日常生活の場として今も中国の人々が暮らしている住宅地域のことです。そんな胡



一組となり人力車に乗って胡同を散策しました。途中下車した四合院では、実際に すんでいる住人から家の作りや生活の様子を聞くことができました。生徒たちは説 明の内容を一生懸命しおりに記入したり写真を撮ったりと充実した見学ができまし た。

中学二年生の学年通信でも北京修学旅行の様子は紹介されていますが、最後に担任の溜久美子先生の言葉を紹介したいと思います。

「四日間で皆さんも手応えがあったように、大きく集団として成長したと思います。班長や実行委員をはじめ、一人一人が自分の役割を自覚して動く姿がありました。『記録をとるの楽しくなってきた』と、責任を果たすことの充実感をもつ姿もありました。活動中に元気がなくなることがあっても、声を掛け合ってサポートし合う姿もありました。活動班を決めるときから学年として『よい修学旅行にしよう』と心を一つにして始まった修学旅行。最後までこの気持ちを忘れずに頑張れたことは、本当に素晴らしいと思います。」

言うまでもなく、修学旅行は単なる観光旅行ではありません。集団として目標をきめ、その目標達成のために一人一人がその役割・責任を果たすことが大切です。また、集団で行動する時のルールやマナーを守るとともに病気や怪我をしないよう自己管理をしっかりする。どれも将来社会に出た時に求められる資質や能力が育成されるとても素晴らしい行事です。大きく成長した二年生。明日行われる生徒会役員選挙をはじめ、これからの広州日本人学校を牽引する中学生としてさらなる期待が膨らみます。